

### 3. 下水道の歴史はトイレの歴史?

わたしたちがあたりまえのように使っている下水道。でも昔は下水道がありませんでした。昔の人はどうやって汚物(うんちやおしっこ)の「あとしまつ」をしていたのでしょうか。

## トイレの歴史 ~ 海外編 ~

● 約7,000年前  
現在のイラク国に流れているチグリス・ユーフラテス川沿いの街に、世界で一番古い下水道がつけられました。

● 約5,300~4,700年前  
現在のパキスタン国のなかに、「モヘンジョ・ダロ」という大きな街がありました。街には溝を掘り、たまった汚物を溝に流していました。

● 約2,600年前  
現在のイタリア国のローマという街に下水道がつけられました。トイレは水洗式公衆トイレで、利用するにはお金が必要でした。下水道管の一部は現在でも使われています。

● 約800年前  
街の人口が増えていくにつれて、街も大きくなっていきました。しかし、下水道の整備が追いつきませんでした。普通の家にはトイレがなく、「おまる」みたいな容器にうんちやおしっこをしていました。「おまる」が汚物でいっぱいになると、決められた場所に捨てることになっていましたが、持って行かず窓から外へ投げ捨てるのが習慣となっていきました。よって、街は汚物まみれとなり、伝染病が発生し、たくさんの方がなくなりました。



赤ちゃん用のおまるとはちがいますね

● 約400年前  
トイレはあまり変わりませんでした。  
パリやロンドンなどの大きな街では、3・4階の建物が多く、トイレは共同で、しかも外にあったそうです(自分の家にトイレがないなんて今では信じられませんね)。

上の階の住民は、トイレに行くために下りるのが面倒なので「おまる」を利用し、夜のうちに窓から汚物を投げ捨てていました。その結果、道路は汚物だらけになり、雨の日はドロドロにぬかるんでいました。建物の窓から投げ捨てられる汚物を浴びないために、イギリス紳士は頭にバケツをかぶり、服が汚れないように布をまとっていたそうです。それが今の「シルクハット」や「外とう(マント)」のもとになりました。また、歩道の外側を歩いたら汚物がかかるので、女性を歩道の内側を歩かせるマナーが生まれたそうです。



シルクハットとマント